

# (農)サンファーム法養寺だより

農事組合法人サンファーム法養寺  
平成28年1月1日



明けましておめでとうございます  
今年もどうぞよろしく申し上げます

平成28年 元旦



## 一年の計は元旦にあり

代表理事 上田 莊一

新年明けましておめでとうございます。新たな年明けに「今年も頑張ろう！」と気持ちも新たにしているところです。

昨年は若い山本志穂さんが経営に参加してくれて組織の雰囲気が一新されました。総体的に「農業は年寄りの仕事」といった状況で経営されることが多いのですが、若い人の参加で10年以上先を見据えた計画を模索しているところです。志穂さんは果樹で専業経営をしてみたいという希望なので、是非とも夢をかなえてやりたいと全面協力する予定です。数年後には他には見られないおいしいブドウが収穫できることでしょう。

一方で、昨年は8月後半の台風や7月の大雨で、大豆発芽不良・水稲の粉ずれ、ハウスの損壊など手痛い自然災害を受けることとなってしまいました。また、TPP交渉が妥結されて農産物価格の低迷が懸念されるなど農業情勢は厳しい状況に向かうのではないかと心配されます。農業は予期しない自然災害や社会情勢の変化に振り回されるのはやむを得ないのかもしれない。

昨年6月6日、安田農政水産部長、千代同次長、山元農政課長という県庁の農政水産部トップが当法人を訪問されました。滋賀県は全国有数の集落営農組織率を誇っていますが、今後さらに施設園芸の導入や人員更新、新規就農者の確保など今後の課題について意見交換をしました。

法養寺ではいち早く集落営農を立ち上げ、法人化して集落の農地を守ることができましたが、ハウス園芸に取り組むことよってトマトやイチジクといった園芸生産にも取り組んでいます。「守りの農業」でスタートした集落営農が「攻めの農業」に発展してきたといえます。

元旦に当たりこれからの農業にどのように取り組んでいくのかみんなとじっくり考えたいと思います。